

絶滅危惧類 ハナヤスリ科

ミヤマハナワラビ

Botrychium lanceolatum (Gmelin) Angst.

全国カテゴリー；絶滅危惧 A類

【選定根拠】 過去(30～50年)の生育確認後、情報なし

【形態】 夏緑性で小型で無毛。4～20cmで共通柄は長く2/3以上に達する。羽片は披針形で深裂する。裂片は長楕円状で、実葉は円錐形1～6cm。孢子嚢は側生して、横に裂開する。

【分布】 我が国では本州中部以北の高山帯、山地の岩間など比較的日当たりの良い土地にごくまれに生育する。北海道、新潟県、長野県、山梨県で報告あるが産地は大変少ない。中国、旧ソ連、ヨーロッパ、北米の北半球の温帯に広く分布する周極植物。

【県内の分布、生育状況】 尾瀬に記録があるがその後の記録はない。

【主要文献】

倉田 悟・中池敏之．1990．日本のシダ植物図鑑．東京．6：222．

絶滅危惧類 コケシノブ科

ヒメハイホラゴケ

Crepidomanes amabile (Nakai) K. Iwats.

【選定根拠】 過去(30～50年)の生育確認後、情報なし

【形態】 常緑性の小型のシダ。根茎ははい、ところどころで分岐し、狭い間隔で葉を散生する。葉は小型で3～5cm、3回羽状複生、葉柄基部近くまで翼をつけ、汚れた褐色の毛をまばらにつける。葉身は三角状楕円形から広い披心形。形、大きさの変化が大きい。裂片は数が多く、重なり合い平たくなならない。葉は暗緑色。包膜は浅いコップ状。縁はわずかに反転する。

【分布】 北海道、本州日本海側、北九州の深い森林に生じることが多い。朝鮮南部にも分布する。

【県内の分布、生育状況】 熱塩加納村、会津若松市に記録がある。

【主要文献】

福島県植物誌編さん委員会．1987．福島県植物誌．481pp．福島県植物誌編さん委員会．いわき．